

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">村越 彩 【比較社会文化学専攻 平成22年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p>中国人日本語学校生の自己効力を活かした進路選択—日本語教師のサポートに着目して—</p>	<p>本研究は中国人日本語学校生(以下、中国人学生)がどのように進路選択をしているのか、進路サポート、進路選択自己効力、進路探索行動に着目し実証研究を行い、検討することを目的としたものである。</p> <p>第1章は中国の高等教育制度改革、就職難、価値観等と、日本留学がどのように結びつくか概観した。第2章は中国人学生の進路状況、直面する問題、ソーシャル・サポートに関する諸研究を概観し、第3章は自己効力理論、進路選択自己効力とその関連要因・進路選択自己効力への働きかけに関する諸理論および先行研究を概観した。</p> <p>第4章(研究1)は中国人学生の進路サポート源と進路選択の際に理想とする日本語教師の役割を検討した結果、進路サポート源は「ホスト国の進路サポート源」「同国の進路サポート源」に大別され、「熟達者としての教師」「情報提供者としての教師」「心理援助者としての教師」が理想であることが示唆された。第5章(研究2)は中国人学生の進路選択自己効力に進路サポートへの影響について因子分析を用いて検討した結果、進路選択自己効力として「将来設計」「情報収集」「目標選択」「計画遂行」、進路サポートとして「心理・指導サポート」「周辺的情報サポート」「基本的情報サポート」「機会提供サポート」が抽出された。重回帰分析の結果、進路選択自己効力に「心理・指導サポート」が影響を与えている可能性が示唆された。第6章(研究3)は中国人学生の進路選択自己効力と進路探索行動との関連について因子分析を用いて検討した結果、進路探索行動として「環境探索行動」「自己探索行動」が抽出された。また、「将来設計」「計画遂行」と、「環境探索行動」との相関が認められた。第7章(研究4)はサポートプログラムを行い、参加群と非参加群とでは進路選択自己効力と進路探索行動が異なるか、講座受講でどのような学びを得たかを2要因分散分析を用いて検討した結果、参加群は「自己探索行動」を行なう傾向が示唆された。また、参加群は「新たな視点」「目標達成に向けた基盤」という学びを得たことが示された。</p> <p>第8章は中国人学生の進路選択における就業の意味に着目し、総合的考察を行った。本研究の意義は、これまであまり注目されてこなかった日本語学校の中国人学生の進路選択の様相を進路選択自己効力の観点から解明し、今後のサポートのあり方を提示した点である。</p>
審査委員	(主査) 加賀美常美代 教授	
	内藤俊史 教授	
	佐々木泰子 教授	
	伊藤美重子 教授	
	菅原ますみ 教授	